

様式（細則 5-2）

平成 26 年 10 月 14 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 串崎 利行



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 26 年 8 月 18 日～8 月 20 日
  
2. 視察又は訪問先
  - (1) 長崎県大村市 おおむら夢ファームシュシュの取組  
内容 自然・農業体験型観光と地域の担い手連携について
  - (2) 熊本県球磨郡山江村 時代（とき）の駅むらやくば  
内容 グリーンツーリズムと地域連携について
  - (3) 熊本県人吉市 人吉市役所、農家レストラン「ひまわり亭」  
(ひまわり亭と人吉・球磨グリーンツーリズムの取組について)  
内容 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」
  - (4) 福岡県太宰府市 九州国立博物館  
内容 文化財修復と和紙の役割について
  
3. 参加者 串崎利行、野藤薫、上野茂、飛野弘二、布施賢司、平石誠  
渋谷幹雄、西田清久
  
4. 調査経費 30,786 円



## 5. 各視察先の研修内容

【農業生産法人 有限会社シュシュ】代表取締役 山口成美氏

### 〈1〉視察に至った経緯

浜田市は豊かな自然に恵まれ、様々な農産品や海産物が有ります。  
この資源を有効に活用して、さらなる交流人口の増大と地域の活性化を願い、『地域農業の活性化と後継者の育成』を目指している おおむら夢ファーム シュシュの取組みを視察した。

### 〈2〉研修内容

#### ① 施設見学[長崎県大村市弥勒寺町486]

「おおむら夢ファーム シュシュ」

#### ② 山口成美氏と意見交換

視察当日は、大雨洪水警報も発令される状況の中、レンタカーで浜田市を出発しました。

昼前におおむら夢ファーム シュシュに到着、園内のぶどう畑のレストランを見学、平日にもかかわらず多くのお客様で賑わっていました。

レストランはバイキング形式で大人 1300 円食べ放題、地域の様々な食材を提供し創意工夫が見られた。

地産地消、農業の6次産業化を目指して、周囲には各種収穫体験施設や農林水産物直売所（新鮮組）、パン工房、洋菓子工房、シャーベット工房など、若者や家族連れを意識したオシャレな建物が連なっている。

山口氏は大村市農協で営農指導員をしていたが、平成2年農協を退職し専業農家になった。高齢化による後継者不足、農地の荒廃への危機感から地区の有志40名と「福重地区農業農村活性化協議会」を設立、その中の8名の専業農

家で、ビニールハウスの小さな農産物直売所「新鮮組」を始めた。

様々なアイデアで、常に前向き、モノを売るのではなく夢を売る、“年中夢求”と熱く語って頂いた。

### 〈3〉所感（まとめ）

農協での活動に限界を感じられ、自ら専業農家への道を選ばれ、(有)会社シュシュを立上げられた事の、話を聞くと、笑顔と、行動力、また、自信の満ちた表情に圧倒されました。高齢化による耕作放棄地の増加や若者の後継者離れ等による地域崩壊の危機感を抱いた地域でありながらの成功の例で、今後の浜田市にとって参考になると感じました。

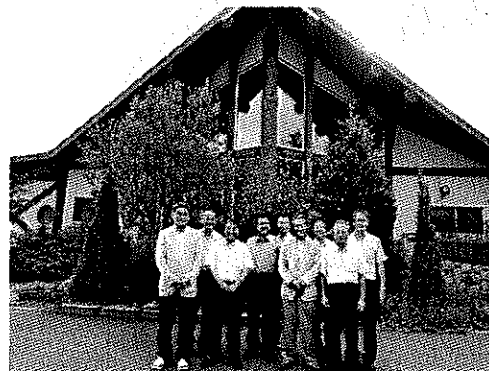
名刺のこだわり、毎月変えている事、また、一次・二次・三次・六次産業まで一貫した取組み等の工程の中に、色々なアイデア等がありました。

施設野菜、農産物直販所、アイス、パン工房、レストラン経営が主で、従業員86名と聞き、特に、レストランではバイキング方式で、野菜等が中心であり、沢山の品数、味付けも素晴らしく、老若男女のリピート客は沢山あると感じました。また、レストランでは冠婚葬祭もでき、それにも色々な工夫がされていました。

従業員は大変若い職員が多く、職場が生き生きとしており、これも、社長の人脈、考え方が素晴らしからだと感じ、浜田市にもこうした人材の確保が出来れば浜田市が元気になると感じました。



ぶどう畑のレストラン



おおむら夢ファームシュシュ

【球磨郡山江村】山江村 内山慶治村長

山江村議会 松本佳久議長

## 〈1〉視察に至った経緯

九州の人吉・球磨地方はグリーンツーリズムが盛んであると聞き、海山自然豊かな石見地域・浜田市の参考になればと最初に山江村の取組を視察しました。

## 〈2〉研修内容

### ① グリーンツーリズムと地域連携について（時代（とき）の駅むらやくば）にて

山江村は現在、人吉・球磨グリーンツーリズム協議会に参加しているが、地域活性化に平成4年ボンネットバスを復活させ、各地からボンネットバスの大会を開催し地域活性化を図った。その後、グリーンツーリズムで特産品の栗を収穫する農業体験や、栗の加工品作りなど交流人口の増大を図った。

平成15年第1回グリーンツーリズムネットワーク全国大会（熊本）参加をきっかけに、地域からの様々な体験メニューが提案された。

また本場イギリスのグリーンツーリズムを研修する為、村から3名派遣した。

農業体験、収穫、加工の中で地域の食への関心も高まり「食を通じた交流」も始まった。

旧役場を「時代（とき）の駅むらやくば」レストランとして改装オープンした。

## 〈3〉所感（まとめ）

時代の駅むらやくば（レストラン）にて、昼食を頂き、その後、内山村長、川内会長、松本議長、商工観光係の高橋さんより話を聞きました。また、関東の女子大生2名も意見交換に参加され、山江村は第二の故郷だと話されていきました。その言葉より、そこに住む人の絆、心のふれあい等大切にされていると感じました。人がどうにかしたいという問題のところにチャンスがある。得意なものに気付き、それを伸ばしていく。人のコミュニケーションというのは、相手の顔を見ながら築いていく、携帯電話・インターネットは道

具と、話されました。グリーンツーリズムを通じ、食と健康、市場は大きく開かれていると感じ浜田市も議論を重ね、ビジネスへ参画できる体制作りが大事だと感じました。



村長、議長、大学生他



時代の駅むらやくば（レストラン）

#### 【熊本県人吉市】人吉・球磨グリーンツーリズム協議会（人吉市役所）

農家レストランひまわり亭（本田節氏）と農家民泊

##### 〈1〉視察に至った経緯

九州での先駆的な取組と言われる人吉・球磨グリーンツーリズム協議会は10市町村による協議会である。この取組や、中心的な存在の本田節さんのお話を聞く事と、農家民泊によりグリーンツーリズムの目的、「豊かな自然、歴史、文化などの多面的な資源を活用しながら、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」を視察研修した。

##### 〈2〉研修内容

###### ① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」

農家レストラン『ひまわり亭』代表 本田 節 氏

###### ② 農家民泊

最初に人吉市役所において人吉・球磨グリーンツーリズム協議会事務局の山本次長より、人吉市の説明と協議会の今日までの経緯と概要説明を受けた。

この協議会の設立経緯は、平成15年より人吉市を含む10市町村が構造改革特区「森林の郷 農林業げんき特区」としての認定を受けた事を契機に、都市農村交流事業への取組がなされた。

平成17年度にはこの取り組みに参加した農家の方を中心に「人吉市グリーンツーリズム推進協議会」が設立、農家民泊が始まった。当初「田舎に泊まろう農業体験」として小学生の受入れをスタート、川遊びや虫とりなどで都会の子供達が感動する姿を見て、豊かな自然を再確認する事になった。

この農家民泊の為の研修の過程で、それぞれの地域と特色有る料理を持ち寄り、食の交流会（研修）を、ひまわり亭で開催する事になった。

市役所にて説明の後、ひまわり亭に移動し本田節氏より話を聞いた。

「ひまわり亭」は地産地消、食の交流拠点として立ち上げた。食、農を地域資源とした拠点、郷土の家庭料理をテーマにしている。

地域の高齢者の知恵が家庭料理に詰まっている。これがお金に、おこずかいになる。すると地域の中で自立出来る。ボランティアでは続かない。

怒涛のような、本田節氏の想いを聞く一方で有ったが、地域の魅力やそこに住む人の魅力がストレートに響いた研修で有りました。

その後、農家民泊のお母さん方がお迎えに・・・二つのグループに分れそれぞれの農家に向かい、夜が更けて行きました。

### 〈3〉所感（まとめ）

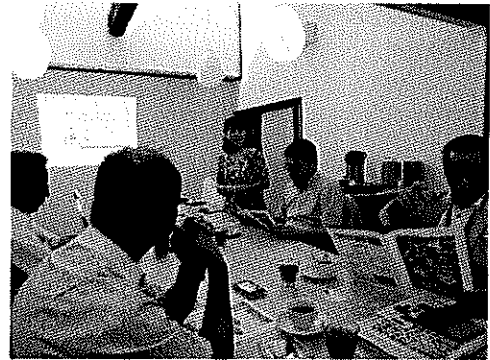
恵まれた自然その中から生まれてきた「郷土の味」故郷の味を、次世代へ伝えたい熱い思いを、本田節氏から話を聞きました。地産地消・食を通じた地元の情報発信・地元の旬の食材を使った食文化の創造と伝承・安心で安全な食の提供・グリーンツーリズムの推進・食育の推進等、勢いのある話に圧倒されました。また、行政の出来ない事をするとも話されていました。

全国を講演等で年間の半分近く走りまわっておられ、常にチャレンジ精神

を持って夢を叶える為、全力で生きておられる、姿を見ていると、やる気があれば、何でも出来ると改めて感じました。



人吉市役所にて



ひまわり亭にて、本田節氏

【福岡県 太宰府市】九州国立博物館 学芸員

国宝修理装演師連盟 坂田理事長

### 〈1〉視察に至った経緯

ユネスコ文化遺産である浜田市三隅町の石州半紙は、国宝などの文化財の修復には欠かせない。

この度、会派視察の帰途に九州国立博物館に立ち寄り、修復の現場で視察研修を行った。

### 〈2〉研修内容

#### ① 「文化財修復と和紙の役割について」

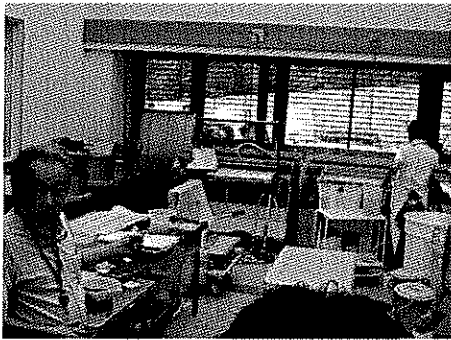
国宝修理装演師連盟 坂田理事長が、当日九州博物館の滞在されており、お話を聞く事が出来た。

修復現場は、気温や湿度の管理と、災害から文化財を守る為の、設計になっていて、普段は見る事の出来ないものでした。

また大学で文化財の修復を専攻している学生も、実習に来ていて、修復の各段階の説明を聞く事が出来ました。

### 〈3〉所感（まとめ）

文化財修復の作業を初めて見る事が出来、修復現場に行くまでのセキュリティも凄いと感じました。石州半紙は修復するのに、非常に大切なものである事もわかりました。修復現場は空調設備等もされ、その中で、きめ細かい作業で息が詰まるほどでした。また、地震による転倒、破損等を防ぐ「免震構造」になっていました。こうして、文化財を後世に継承され日本の宝として守っておられると感じ、いい体験をさせて頂きました。



坂田理事長と修復の現場



国宝修理装潢師連盟の職員